

施策名：文化財・伝統文化の保存・活用・継承

事業名	担当課・室名	ページ
日本遺産認定推進事業	文化課	1 / 2
特別展開催事業	文化課	2 / 2

事務事業評価調書

(事業実施年度：平成28年度)

別紙2-4

(評価実施年度：平成29年度)

事業名	日本遺産認定推進事業		事業期間	平成28年度～平成30年度		政策区分	芸術文化による創造県おおいとの推進	
						施策区分	文化財・伝統文化の保存・活用・継承	
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課(室)名	文化課		評価者	参事監兼文化課長 佐藤 晃洋	

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	各市町村において、文化財の魅力を活かした観光振興・地域活性化が進められているが、市町村の枠を超えて広域的に連携して文化財の魅力を発信する取組が十分でない。	事業の目的	市町村を繋ぐ文化・伝統のストーリー化等を行い、日本遺産認定を目指すことにより、地域の活性化を図る。
-------	---	-------	---

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
①日本遺産認定に向けた文化財の効果的なブラッシュアップ 日本遺産推進協議会等から推薦を受けた文化財の整備(4件)	①	15,000	総コスト		37,736	37,090
②広域的な情報発信 文化庁による日本遺産に関する講演会の開催(1回) ストーリー等を紹介するチラシの作成・配布等(3,000部)	②	1,715	事業費		17,736	17,090
③日本遺産推進協議会の開催 市町村が作成したストーリー等に対する有識者等からの助言・指導(3回/10市町参加) 平成29年度認定に向けた申請(4件/10市町) 文化庁担当官や有識者等による文化財等の現地視察(2回)	③	1,333	(うち一般財源)		17,736	17,090
	④		人件費		20,000	20,000
	計	18,048	職員数(人)		2.00	2.00

活動指標	指標名(単位)	達成度	27年度	28年度	29年度	最終達成(30年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	27年度	28年度	29年度	最終達成(30年度)	評価割合	評価
	文化財の整備件数(件)	目標値		4	5	5		83%	日本遺産推進協議会の開催回数(回)	目標値		3	4		
	実績値		4					実績値		3					
	達成率		100.0%					達成率		100.0%					
日本遺産に関する講演会の参加者数(人)	目標値		40	100	100	10%		目標値							
	実績値		43					実績値							
	達成率		107.5%					達成率							

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	27年度	28年度	29年度	最終達成(30年度)	評価	事業の成果
平成29年度認定に向けた申請件数(件)	目標値		4	4	4	4	a	日本遺産に関する講演会等を通じた申請の呼びかけが奏功して、3回開催した日本遺産推進協議会には10市町が参加し、最終的に4件の申請を行うことができた。 また、日田祇園のユネスコ無形文化遺産登録の機会を利用し、大分市内での見送幕の展示会を介して、日本遺産に認定された咸宜園等を有する日田市の情報を発信した。
	実績値		4					
	達成率		100.0%					

[4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度認定に向けた申請件数(目標4件)の確保 文化財の整備件数(目標5件)の確保 広域的な情報発信の実施 	今後の方向性	終了 <input type="radio"/> 継続・見直し <input checked="" type="radio"/> 例外的に継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/>
		今後の事業方針	<ul style="list-style-type: none"> 毎年申請件数4件を確保できるよう、市町村へ働きかけを実施 日本遺産認定に向けた文化財の効果的なブラッシュアップが図られるよう、申請市町村のヒアリングを行い、日本遺産推進協議会で協議しながら整備すべき文化財を決定

事務事業評価調書

(事業実施年度：平成28年度)

(評価実施年度：平成29年度)

別紙2-4

事業名	特別展開催事業		事業期間	昭和56年度～平成 年度	政策区分	芸術文化による創造県おおいの推進	
					施策区分	文化財・伝統文化の保存・活用・継承	
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課(室)名	文化課	評価者	参事監兼文化課長 佐藤 晃洋	

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	県立歴史博物館は、地域に残る文化と文化財を未来に伝えるため、各種調査事業や文化財保存事業を実施し、これらによって得られた成果を展示及び教育普及活動に反映させている。しかし、利用者数が少ない年度もあり、「学びの場」として広く県民に活用してもらうことが課題である。	事業の目的	特別展では、平常展や他の企画展ではなかなか見られない文化財資料を県内外から広く収集・展示し、様々な視点から歴史と文化に触れる機会を県民に提供することにより、入館者数の増加を図る。
-------	--	-------	---

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
①開館35周年記念特別展「生誕200年記念 賀来飛霞」開催 大分県出身の偉人であり、三大本草学者の一人ともされる賀来飛霞の生誕200年を記念し、賀来飛霞ゆかりの文化財を展示 (H28.10.14～H28.11.20、33日間、6,239人)	①	7,837	総コスト	17,814	15,634	18,754
	②	142	事業費	8,214	6,034	9,154
	③		(うち一般財源)	4,651	3,047	5,409
②記念講座「博物学者としての賀来飛霞」及びシンポジウム「賀来飛霞本草学の新たな視点」開催 段上達雄氏(別府大学教授)らによる記念講座並びにパネルディスカッション(各1回)	④		人件費	9,600	9,600	9,600
	計	7,979	職員数(人)	0.96	0.96	0.96

活動指標	指標名(単位)	達成度	27年度	28年度	29年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	27年度	28年度	29年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
特別展入館者数(人)			8,000	6,000	8,000		98%								a
		目標値	8,000	6,000	8,000										
		実績値	4,691	6,239											
	達成率	58.6%	104.0%												
特別展講座受講者数(人)			150	150	150		2%								
		目標値	150	150	150										
		実績値	197	180											
	達成率	131.3%	120.0%												

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	27年度	28年度	29年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
年間利用者数(人)			47,000	47,200	47,400		a	平成28年度特別展の入館者数は、平成27年度と比較して大きく増加した。大分県出身の偉人である賀来飛霞を特別展のテーマとして扱ったことだけでなく、開催前にオリジナルバッグの配布や新聞紙面における連載特集を行う等、積極的な広報を行ったことが入館者数の増加につながったものと考えられる。
		目標値	47,000	47,200	47,400			
		実績値	64,894	76,426				
	達成率	138.1%	161.9%					

[4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の関心・興味を惹く展示や関連講座の企画 ・ ラグビーワールドカップや国民文化祭の開催を見据えたインバウンド対策 ・ 児童生徒が楽しめる展示企画や関連イベント、出張講座の実施 ・ 前売券の販売を含めた、広報活動の早期実施 ・ 平成26年度に開設したフェイスブックやテレビなど各種媒体を活用した広報活動の強化 	今後の事業方針 ・平成29年度は、「開山1300年記念 聖なる山ー六郷満山と仁聞ー」と題し、平成30年に開山1300年を迎える国東半島六郷満山の仏教文化をテーマにした特別展を開催 ・六郷満山の開山者とも八幡神の化身ともされる「仁聞」の伝承を柱として、宇佐国東の仏教文化を紹介 ・国東半島における関係団体や九州国立博物館との連携				